



ヘンリー・ダイエル『技術者の教育』(6)

梅溪 昇*・山中 泰**

(前号のつづき)

私は英国人の業績としてフェイリー・クイーン (Faerie Queen)^① やノーウム・オルガヌム (Novum Organum)^② を正当な位置に復活させた。シェークスピア (Shakespeare) をエリザベス一世時代の英雄とし、また英国学士院 (the Royal Society) の科学的調査を新しい形の勝利と並べた。もし軍事史や政治史の中の紋切型の人物が普通の歴史本にくらべて、少ししか書かれていないとすれば、それは普通の歴史書では余り問題にされない、宣教師、詩人、印刷屋、商人、あるいは哲学者の姿を書く場所を見つけなければならなかったからである。」

歴史の宝庫はただに書物だけではありません。古墳や巨大な石積みの中に、あるいは昔の道具や器具の中に、つまりその国の古代の遺物の中に、普通の書物においてよりももっと多くのものを学ぶことができます。

歴史研究のこの方法は、日本では非常におそろかにされており、将来古代の遺物を研究する学生は自国の製作物を研究するためにはヨーロッパかまたはアメリカへ行かなければならないでしょう。手遅れにならない中に、美術品や工業品のための国立博物館をつくることにより、過去の遺物を日本に保存するための、なんらかの処置がなされることを私は望んでいます。

偉人の伝記も有益で興味のある研究の資料となります。伝記では、しばしば最も賢明でありかつ善良な人びとがみずからの心を開いて密かに深く考えていることをわれわれに知らせてくれ、それによってわれわれの考え、言葉、行為が彼等とくらべて、十分でないのに気づいて不

足を補うよう努力することになります。

おそらく諸君は、想像力 (Imagination) は科学者にとっては顧る価値のないもので、詩人や小説家にまかせておけばよいものだと聞かされてきたと思うので、私が諸君に想像力を養うよう勧めたら不思議な気がするかも知れません。しかし、これほど大きな誤りはありません。なぜなら、科学における最も重要な発見は、暗示に富んだ想像力の活発な力 (the quickening power of a suggestive imagination) によるものであることはよく知られているからであります。それなくしては、ニュートン (Newton) は流率 (fluxions) を発見できなかったでしょうし、デービー (Davy) は土とアルカリを分解できず、コロンブス (Columbus) は新大陸を発見しなかったであります。そして想像力が合理的な判断力なしに働く場合のみ、それは科学の敵 (the enemy of science) となるのです。諸君が想像力を正しく使うことによってどういうことが可能かを知るために、私は諸君にティンダル教授 (Professor Tyndall) の「想像力の科学的使用 (Scientific Use of the Imagination)」という雄弁な講義を読むことを勧めます。

想像力を養うために、空想的な作品に諸君が注意を向けるのを制限する必要は全くありません。ブラッキー教授 (Professor Blackie; Self Culture, PP. 23—25) が雄弁に語っているように、「歴史において、また具体的な事実を扱うすべての学問において、想像力は詩においてと同様に必要である。歴史家は、たしかに事実を発明することはできないが、美しいみごとな

*梅溪 昇 (Noboru UMETANI), 大阪大学文学部, 大阪大学教授, 文学博士, 日本近代史

**山中 泰 (Tai YAMANAKA), アメリカ合衆国, エモリー大学卒 (ギリシア古典学部), 大阪大学文学部研究生

① エドムンド・スペンサー (Edmund Spenser) の騎士物語詩 (1590—1609). [訳者註]

② フランシス・ベーコン (Francis Bacon) の哲学および科学的研究法に関するラテン語論文 (1620). [同上]

調和をもって (with a graceful congruity) 事実を形ちづけ、かつ配列 (mould them and dispose them) しなければならない。そして、それをなしうるのは想像力の働きである。おとぎ話やあらゆる種類の架空の物語は、もちろんそれなりの価値があり、想像力を養うのにうまく役立つことがある。しかし、何にも増してこの想像力を最も有効に働かせることができるのは、事実と取り組んで精を出す時であり、私は学生諸君に主としてこうして想像力を養うよう勧める。人間の性格や運命の心像を知るために、空想を満足させ想像力をたかめるように計算された空想小説にむかう必要はない。

アレキサンダー大王 (Alexander the Great), マルチン・ルッター (Martin Luther), グスタウス・アドルフス (Gustavus Adolphus) の生涯、すなわちみずからが創造した歴史そのものであるような世界の大舞台上の著名人の生涯は、今までに書かれた最良の小説や詩にもましてこの目的のために教育的価値がある。すべての人間が詩をよるこぶとは限らないが、すべての人間は立派なめざましい事実によって感銘を与えられ、高められる。偉人や善人の生涯について想像力を働かせると二種の利益がある。何となれば、これによって、一気に、また最も効果的な方法で、何が実際になされたかと何がなされるべきかが判かるからである。しかしながら、想像力を適切に訓練するためには、それを高めるイメージを空想の前にたのしく浮かばせるだけでは駄目なのである。そのような単なる受身の心構えでは力は生まれぬ。学生は、正式に自分の想像力を振り起こして、通り過ぎる美しい影をしっかりと捉え、かつ灰色の記録が終った後、適切な象徴、態度、表情とともに、物語の進行を順序正しく思い起こすことができはじめて満足すべきである。目があいていながら何も見ないで人生を過ごしてしまう人がいるように、読書をしておそらく諸事実を頭に詰めこみながら、余暇に想像を起こさせ、あるいは困難なときに忍耐を与えるような意味深い物語の生き生きしたイメージを捕捉することができない人がいる。それゆえ、諸君は有名な本の一章を読み終った時には必ず灰色のページに何

が印刷されていたかということではなく、諸君の想像力の輝しい陳列室にどのようなものが描かれているかを自分に問うてみなさい。絶えず諸君の想像を生き生きとした、密度と色彩豊かなものにみなさい。事実が起こったことを単に知っているだけでは一つの事実を知っているとはいえず、その事実がどのように起こったかを理解してはじめて事実を知っているといえるのである。」

また美術を勉強したり練習したりすることは、想像力を養ううえに広い世界を提供します。諸君の中ですぐれた芸術家になる人は少ないでしょうが、諸君のすべてが芸術的趣味を養い、芸術を促進すべきです。過去数年の間、日本では芸術に関するすべてのものに悲しむべき下り坂の傾向がみられると申さなければなりません。封建時代にくらべて、現在は芸術を養うのにあまり事情がよくないことを私は認識していますが、自国の芸術をほとんど全面的に無視し、また低俗かつ粗野で芸術的センスを傷つけるような雑多なスタイルを採用していることについてはいくら弁解しても弁解にはなりません。

その国の芸術の状態は、その国民精神を非常に公正に指すものであること、また真の文明と進歩というのは簡単に国民的特質を捨て去り、外国の光沢でうわべを飾るのでなく、国民的伝統や慣習を本当に解釈し、経験によって悪いとわかったものだけを拒否し、国民的特質に害のないような習慣だけを取り入れることであることを諸君は思い起こすべきであります。諸君は芸術のために十分な時間を持たないから、諸君が芸術の追求にあまり没頭しすぎるのを戒める必要はほとんどないと思います。しかし諸君の人生経験において、芸術に夢中になって単に感情と衝動の人となり、非論理的な推論と習慣のような非実際性が近所の人びとのうわさ話になっているような人に出くわすでしょう。

詩 (Poetry) は、自然と人生のイメージと言葉との結合であり、また文学と芸術との結合とみなしてよいでしょう。かつてのある英国の大法官 (Lord Chancellor) は、「詩人は自然界の司祭である。彼は、知と美を平凡な形においても、また高貴な形においても、認識しほめた

たえる。普遍的な人間性をもつわかり易い言葉で話し、その時代の思想、感情、熱望の最も美しく、そして最も消散しやすいエキス (essence) を集め、それを永遠に人類共通の知的蓄積に加えるのが彼の役目である。彼が書くものは民衆の人生哲学の倉庫である。彼の芸術により、天才の説は人びとには格言として通用する。彼はガラスであり鏡である。そしてその中に、一般に通用している真実、有力な考え、その時代の前途と回顧がうつる。それらは彼の心の中で最も力があつたもので、抽象的な形で分析されたり、あるいは現わされたりしたものでなく、彼がそれらによって行動させられたからである。すなわち、彼は道徳的な雰囲気、視覚の媒体として、それらを通して過去・現在・未来の事物をじっと眺めたのである。何となれば、詩人は代表者 (a Representative Man) である。彼の時代特有の精神と独特の性格の中で、彼が美しく、そのために不滅であるに価すると感じるものすべての解説者なのである。彼はある時には同じ精神の外的な表明を構成している一連の事件を先導し、またある時にはそれのあとに続くように見える。彼はあとで世界を明るくする炎によって最初に感動したものの中にいるかも知れないし、あるいはまたその力をつかいつくし、かつ他ならば殆んど消されている炎が、彼の魂の中に消えかけの炎として、残されるかも知れない。しかし彼と彼の仲間を動かす力は同じである。そして彼が発する声は、彼の国の一般の人びとの心にはともかく、少くとも彼と同じ世代の多くの人びとの心に共鳴をえる。」と語っています。

詩は単なる贅沢であり、そしてすべての贅沢と同様にできる限り避けるべきだと思ふのは誤りであります。反対に、詩はしばしば国民の心に大きな影響を及ぼし、人びとの性格を形成するものです。「私に国の民謡をつくらせなさい。そうすればあなたは法律をつくってもよい。」と云った人は賢人でありました。詩人の気分を引き立たせる調べは、愛国者を大胆な行動にかり立たせ、また落胆した人を励まして新しい力を発揮させ、かくて、障害は克服され、目的は達せられ、法律もこれを阻止する力がなかったの

であります。

「詩歌とは限りない光の雨であり、力の最高峰であり、力強さは自らの右腕に半ば眠っているものである。」

詩と同じように、中世の騎士物語や小説は、想像力を養う効用がある。その代表的作家を諸君が知ることを勧めたいが、耽溺は精神に有害であることを忘れてはなりません。なぜならば、何ら思考を働かせないで、好奇心と感受性の単なる興奮によって満足が与えられるからです。

近代社会のあの嫌悪すべき扇情的な小説を全面的に避けなさい。

それは「全ページが有害な誤り、そしてもっとしばしばつまらない中古の意見や古い、病める、腐敗した思考で真黒につまっております、また戦争中における不幸な出来事、自然と自身と真実との戦いに満ち、しかも貪欲な読者はなおも魅せられて終りまで読み、さて、彼が自分の思想をまとめようとしても、夢を見ているような空虚しか残らない。」のが普通であります。

詩や小説から、こんどは政治経済学又は経済学へ移るのは余りにも急な変り方のように思われるでしょうが、もしも想像力を養うことが賢明なことであるならば、その国が真に進歩を遂げるためには、経済学の原理 (the principles of economic science) に関する知識は絶対に大切です。諸君の中で枢密顧問官や上院議員になるような人は少ないだろうが、諸君のおのが一般国民の心を動揺させている如何なる問題に関してもその考えを正しい方向に向けさせるよう、当然世論に影響を与える能力をもつべきであり、かくして国の政治に国民の直接の代表者をおくる準備をすべきであります。失礼ながら、この達成は、現在政治権力をにぎっている人びとが希望しているものであり、彼等が徐々にそのように仕向けていることは賢明なことでもあります。ところが日本の執筆者の中には、憲法は一日では作り上げることができない (constitutions cannot be built up in a day) という事を忘れていたものがいます。もし憲法が安定性をもつためであれば、それがゆっくり

と成長し、人びとの進歩に応じて一步一步出来るものであり、ある外国語のなまかじりの知識をもっている人びとの想像によって、その国の理想的な憲法が起草されるものではないのであります。もしそういうことをするならば、これは政治経済学の濫用であり、諸君が実際的な教育を受けた以後では、諸君の誰もがこのような人びとによって指導されるおそれはないと思います。

すべての面における人間社会の法 (the laws

of human society), とくに資本と労働とに関する法 (those of capital and labour), また労働階級の福祉 (the welfare of the working-classes) に直接関係のあるすべての事柄について諸君は注意を払うべきであり、そうすれば現在ほとんどのヨーロッパ諸国で大きな影響をもち、またアメリカ共和国においてすら相当に影響がある社会主義者の意見 (Socialist opinions) の拡がるのを防げるでしょう。

(次号へつづく)